

<h1>SDT</h1>	<h2>制振工学研究会通信</h2> <p>SOCIETY OF DAMPING TECHNOLOGY NEWS 2018年10月号</p>	<p>2018年10月 1日発行 編 集：会報編集委員会 編集責任者：小白井 敏明 担 当 者：山口 道征 URL http://www.sdt-jp.com</p>
--------------	--	---

◇お知らせ

・本通信により会員各位に有用な情報を提供すべく毎月の編集会議では頭を悩まして議論しております。つきましては、ここで取り上げてほしい事がございましたらそのご要望を次のアドレスまで是非お寄せください。

E-Mail: yamagu@pc.highway.ne.jp

◇研究会の行事案内

開催日	開催地・会場	名 称	内 容
18. 12. 21	東京都立産業技術研究センター本部 (東京都江東区)	定例会－2018 技術交流会－	基調講演、一般講演、懇親会

◇分科会・WG・委員会の予定

開催日時	開催地・会場	名 称
18. 10. 05 13:00~15:00	工学院大学新宿校舎A-1711室	会報編集委員会(ホームページWG、編集委員会)
18. 10. 05 15:00~17:00	工学院大学新宿校舎A-1711室	役員会
18. 10. 12 15:00~17:00	日本音響エンジニアリング(株)3F. ミティングルーム	利用技術分科会・建築における制振材料利用技術WG
18. 10. 22 14:00~16:30	東工大・大岡山キャンパス南8号館509号室	振動音響解析WG
18. 10. 26 13:00~17:00	三井化学(株)汐留シティセンター18F. 会議室	計測評価技術分科会・音響管計測WG2

◇会員消息 (2018年10月 1日現在)

○会員数		○入・退会者
法人会員	25 社	－
個人会員	40 人	退会1名、 入会・齋藤正毅氏
学生会員	1 人	－

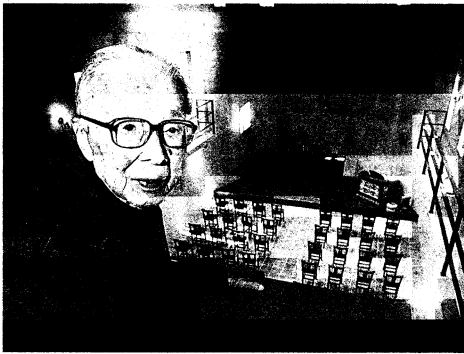
◇関連学協会等の行事案内

開催日	開催地・会場	名 称	主催団体及び内容
18. 10. 02	大阪大学東京ブランチ (東京都中央区)	歯車加工の基礎と応用 ～低騒音・小型化のための歯車加工の 最新技術～	日本機械学会 https://www.jsme.or.jp/event/2018-32407/
18. 10. 10	東京大学生産技術研究所 (東京都目黒区)	音の評価に関する最新標準化動向	日本音響学会 http://www.asi.gr.jp/lecture/2018/seminar20181010_171.pdf
18. 10. 17- 19	名古屋国際会議場 (名古屋市熱田区)	2018 年秋季大会	自動車技術会 http://www.jsae.or.jp/2018aki/
18. 10. 13- 14	神奈川大学・横浜キャンパス (神奈川県横浜市)	平成30(2018)年秋季研究発表会	日本騒音制御工学会 http://www.ince-j.or.jp/recital
18. 10. 22	中央大学後楽園キャンパス (東京都文京区)	空力音・流体音のメカニズムと静粛化	日本機械学会 https://www.jsme.or.jp/event/2018-31558/

◇技術情報

(次ページに続く)

ながた みのる
音響設計士 永田 穂 さん



演奏への集中度は世界一。日本の聴衆がそう評されるほど成熟したのは、この人の仕事あってこそ。東京文化会館やフェスティバルホール（大阪）などの音響を手がけ、全国の人を一流の響きへと招き入れてきた。

少年の頃から手先が器用。戦時中にラジオをつくり、短波で外国の放送をこっそり聞いていた。戦後、NHK放送技術研究所に就職。1963年に西独へ渡り、地方の小さやかなホールや教会の響きの多様さに、進む道を示された。「良い音は、聴く人の人生の数だけある」

71年に独立。86年完成のサントリーホール（東京）は、カラ

静寂をつくる 共生の信条

ヤンの助言を仰ぎながら設計を進めた。舞台を客席で囲むワインヤード（ブドウ畑）型にしたのは「奏者と聴衆がともに作りあげる音楽を、新たな時代の象徴に」との思いから。お披露目公演を聴き、「わあ、音の粒がぱーっと舞ってる！」と興奮した。真に美しい音は言葉にできないと知り、「静寂をつくること」を己の仕事と定めた。

晩年まで、自ら手がけたホールに足を運んだ。トッパンホール（東京）の取締役企画制作担当、西巻正史さん(56)は「演奏家と聴衆がどんな風にホールを育ててくれているのか、ワクワクしながら確かめに来て下さっている印象でした」と語る。

人生で音楽から離れたのは、勤労働員の時期だけ。敵機の高度を聞きわけることに音楽家が奉仕する時代が、二度と来ることのないように。他者の音に耳を澄ますということは、あらゆる命の営みを受け入れ、ともに生きるということ。そんな信条は豊田泰久さん(66)ら、世界のホール設計の中枢を担う後進に受け継がれた。

(吉田純子)

イタリアの小さな教会をイメージして設計した長野・軽井沢ヴィラ・セシリア音楽堂。「50席。これが最高のぜいたくです」=2014年、池上直哉氏撮影